＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2021.2.2
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

こんにちは。立教大学ボランティアセンターメールマガジン２月２日号です。
先日、本学客員教授の池上彰氏による「新型コロナウイルスへの対応と経済再生」講演会が開催されました。その中で、大学入学共通テストの内容を例に、コロナによって学びの形が大きく変わり、これまでとは全く違う学びの姿…ただ知識を詰め込むだけではなく、自分なりに消化し、考え問いを立てるような能力が社会に求められているということに触れられていました。
大学とは、そのような能力に必要な基礎をたくさん学ぶ場所であり、大学で「何を学ぶのか」ということを、コロナをきっかけに自分に問いかけ、そして、社会に出てからも学び続けてほしい…そんなお話がなされました。
コロナ禍の今だからこそ、歴史やニュースからたくさんのことを学び、世の中の動きが再開した時に、前よりもっと自分で考え動き出せるような基礎力を養っていきたいですね。

CONTENTS
（１）　ボランティアセンターよりお知らせ
（２）　不定期シリーズ～ vol.2　ボラオシ図書館
（３）　陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報
（４）　オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

活動が必要なのかどうかを十分に考えてから行動するようにしてください。
　このような緊急時においては、学生の皆さん一人ひとりの心がけが何よりも大切となります。マスク着用やこまめに手指消毒等の基本的な感染予防策はもちろんのこと、日常での行動についても、感染リスクが高いと思われるものはできる限り回避するよう努めてください。
　「他者に寄り添う」皆さんの思いは、たとえ直接的なボランティア活動ができなくても必ず何らかの形で人を支える力になります。今この状況下で、あえて直接的な関わりや、不要不急の外出を控えることも、相手を思いやることにつながることをどうぞ忘れないでいただきたいと思います。

==========

（２）不定期シリーズ～ vol.2　ボラオシ図書館

==========

　ボランティアセンターで働くスタッフが、みなさんにお薦めしたい本をご紹介します。読書で新しい世界に出会い、冬の長い夜、脱ネット時間を過ごしてみませんか。

～フランスで 15 万部を突破したベストセラー～

『彼女たちの部屋』

レティシア・コロンバニ(著)／齋藤 可津子 (翻訳)（早川書房）

　実在する保護施設と創設者を題材に、時代を超える女性たちの連帯を描く長篇小説です。
　現代と 100 年前の女性の物語が交差しながら展開していきますが、読み進むうちに、その施設が生まれた成り立ちを徐々に知り、ストーリーが繋がっていく構成は、心に訴えかけてくるものがあります。日頃、自分の関わる何気ない日常の一コマも、これまでの誰かの想いが込められているのかもしれない…と、広い時空間のようなものを感じました。
　多くの難民を受け入れているフランスならではの話が出てきますが、この点は、2020 年 12 月に開催した立教大学バリアフリー映画上映会の上映作品でもある『バベルの学校』にも通じるものがあり、フランスの都市における課題や取り組みの一面を知ることができます。また、周りの人にどう思われようと、恐れずに勇気を持って行動する様々な背景を持つ登場人物の姿に、読んでいて勇気づけられます。「この苦難の時代にこそ読んでほしいシスターフッドと希望の書」として、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』の著者 ブレイディみかこさんも推薦されています。
　自分の行為がちっぽけで虚しさを噛みしめる時があっても、「せめて自分にできることはする！」と言い聞かせながら行動する一方で、様々な心の中の葛藤と向き合う主人公の姿は、ボランティアを経験する人なら、共感する部分があるのではないかと思います。
　全体を通して、「私にできることは何だろう？」と考えさせられ、どんなきっかけであれ、ご縁あって出会った人や物事との関わりを大切に「自分のできることはしよう！」と思わせる展開でした。みなさんも、ぜひ読んでみてください！

==========

（３）陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

==========

　みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。
　東日本大震災から間もなく 10 年が経過します。
　東日本大震災を受け、これまで多くの立教生が様々な活動を行ってきました。陸前高田サテライト事務局では、改めて東日本大震災という出来事に向き合うために、活動に関わった元立教生に当時の活動や思いを尋ねました。「東日本大震災」や「地域」、「まちづくり」、「復興支援」、「災害」、「防災」、「記憶の継承」等をキーワードとする活動にかかわりたいという立教生の皆さん、既に関わっている皆さん、活動のヒントが隠されているかもしれませんよ！

山本武（やまもと・たける）さん（2016 年度社会学部卒業）

私は 2013 年度から 2015 年度中頃まで Frontiers というサークルに入っていました。その活動の一つとして、年に 3 回立教生を宮城県気仙沼市や岩手県陸前高田市に連れて行くツアーを運営していました。活動内容の一つは、現地で地震や津波の被害の大きさを示す場所に足を運んだり、以前から繋がりのある地元の人から被災前後の話を聞いたりすることでした。もう一つは、そういった方々に現地を案内してもらったり、一緒に食事をしたりすることでした。

最初の数回の参加動機は地元の人のニーズを知ることでした。この動機は「私＝支援者」・「地元の人＝被災者」という認識の強固さが生んだものだったと思います。しかし、以下の経験を契機にこの枠組みは一度取っ払う必要があると考えるようになりました。

ある時、いつもお世話になっている旅館の女将さんが、発災よりかなり前の話をしてくれました。彼女は、結婚を機に初めてやることになった牡蠣むきなどの手作業によって好きなお化粧やオシャレができなかったことや、ご主人のどんなところに惚れ込んだかについて話を聞かせてくれました。私は彼女の佇まいやその語りから気迫のようなものを感じ、彼女を「被災者」という役割に還元できませんでした。と同時に、私は「支援者」という役割から引きずり出され、より所のない一人の人間にされてしまいました。つまり、私は彼女を単にニーズを持った人として見なすことに失敗し、したがってニーズを満たすという自分の役割と同化できなくなったのです。

正直なところ、怖かったです。なぜなら私は彼女と自分を役割に還元して、自分自身をさらけ出さないことによって、安心できていたからです。しかし、この経験を咀嚼する過程で恐れと同時に感じている嬉しさを発見した時、私は役割ではなく一人の人間であることを出発点に活動をしたいと考えるようになりました。ただ、それでも役割に溶け込んで安全な場所にいようとする私の傾向はなお強かったです。

以後私の関心ごとは自分がその傾向から出ようとしているのかということと、自分の活動が改めて「支援」と言えるのかということでした。後者の問いは、活動を一人の人間であることを出発点にしようとするときに私自身が陥りがちな歪曲に注意を向けるために必要なものでした。すなわち、「地元の人たちと自分を役割に還元せず、安易に彼ら・彼女らの困難を確定しないこと」が、容易に「一切の役割を負わずに彼ら・彼女らの困難を無視すること」にすり替わることがあるのです。この問いは今でも抱えているものです。

以上の活動は、今でも役割に引きこもる傾向のある私に「それでいいのか？」と問いかけると同時に、役割への還元の停止と思考停止は別物であることを意識するための重要な足がかりになっています。

気仙沼市にある安波山からの風景。市街地と気仙沼湾が見えます。震災当時、安波山にも多くの方が避難しました。

＊お問合せ　立教大学陸前高田サテライト事務局　rrs@rikkyo.ac.jp
＊陸前高田サテライトの取り組みを発信中
公式 Instagram（@rikkyo_rrs）https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

==========

（4）オンラインで参加できるボランティア・イベント等の紹介

==========

龍谷大学より
https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-6451.html
【龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター20 周年記念事業　ボランティアで未来を拓く】
　2001 年に発足した同センターのこれまでを振り返りながら、これからのボランティア活動や大学ボランティアセンターについて考え、交流しながら未来に向けた新たな一歩を踏み出すためのプログラムです。
　プログラムⅠ「なぜ、龍大ボラセンは 20 年続いたのか？」
　プログラムⅡ「龍大ボラセンは何を生み出せたのか？」
　プログラムⅢ「つなごう未来へのバトン　おくろう未来へのプレゼント」
　プログラムⅣ対談 安田菜津紀 氏（フォトジャーナリスト）×入澤崇 龍谷大学学長

日時：2021 年 2 月 11 日（木・祝日） 10：00～ 15：00
定員：200 名　オンライン（Zoom）開催

Gakuvo（公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター）より
http://gakuvo.jp/event/

＜ボランティア募集＞
【オンライン版】チーム「ながぐつ」プロジェクト福島　第 5 回 2/18～2/19
※申込締切日：2/12（金）
【オンライン版】チーム「ながぐつ」プロジェクト福島　第 6 回 2/27～2/28
※申込締切日：2/21（日）

　福島県いわき市の方々とオンラインで交流することで、学びを深め、現地の方々や学生同士の交流の中で新しい繋がりをつくっていきましょう！

【より伝わる作文のための　文章力向上講座】
　12 月 26 日開催「文章力向上講座」の第 2 弾。参加者の一部の方に事前に提出していただいた文書を講座の中で具体的に添削をする「公開添削から学ぶ文章力向上講座」です。
　現役新聞記者である講師の方から、ご自身の作文をより魅力的にするスキルを学ぶことができます。
日時：2021 年 2 月 4 日（木）19:00～20:30
場所：オンラインにて
定員：20 名

（編集：ボランティアコーディネーター／広瀬）

立教大学ボランティアセンター

◎池袋キャンパス
場所：５号館１階
開室時間：月～金　９：00～17：00
　　土曜日　９：00～12：30
◎新座キャンパス
場所：７号館２階
開室時間：月～金　９：00～17：00

※新型コロナウィルス感染拡大のため６月１日以降は短縮開室しております。
月～金　10:30～15:30
土曜日　10:30～12:30（新座キャンパスは原則として閉室です）
職員・コーディネーターともに交替で出勤・在宅勤務のため、休日授業日は、池袋・新座ともに最小人員で開室、授業休講日は、池袋・新座ともに閉室とさせていただきます。

◎ホームページ
http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html
◎メールアドレス
volunteer@rikkyo.ac.jp
◎TwitterID @rikkyo_volucen
http://twitter.com/rikkyo_volucen/
◎Instagram
https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja
配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。
https://forms.gle/xFtZVvd94Je1nJwm7

(C)2019 RVC all rights reserved.